

大漁、池間丸!



七月二十日はカツオの日! 池間島でカツオ祭開催

宮古島のカツオ漁業の継続と発展を目的に昨年制定されたカツオの日(七月、八月、九月の二十日)に合わせ、池間漁港ではカツオ祭が開催されました。

子どもたちは、カツオ漁が盛んだった頃の池間島でおこなわれていた「ジャグガース」や「模擬カツオ釣り」を体験。カツオさばきにも挑戦しました。

また、当日は「第二十六池間丸」が七年ぶりのカツオ漁に出漁。百キロを超えるカツオやマグロを水揚げし、大漁旗とともに帰港しました。(菊地悦子)

発行者
NPO 法人いけま福
祉支援センター
電話：75-2870



何十年ぶりに復活! 船上から投げられるジャグガマガースに、大人も子どもも走ります。

カツオ船に乗り 60年! 伊良波進さんが「カツオの話」を生き生きと語ってくれました。

オープニングでは、カツオの日テーマソング「カツオ万歳」が披露されました。



カツオさばきの技が、親から子へと伝えられます。

カツオ一本釣り体験。サオの先には、ホンモノのカツオが!



カツオは刺身や味噌汁に調理され、天ぷらやおにぎりとともにお祭りの参加者たちにふるまわれました。カツオやマグロの一部は販売もされましたが、あっという間に完売!

第二部、民謡ショー。祭の夜は更けて...

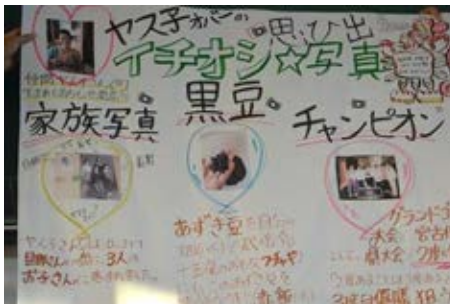
池間島の地元学

7月13日〜14日の2日間、池間島内で島の魅力を探す「あるモノ探しの旅」が行われました。13日最初は、地元学ネットワーク主宰の吉本哲郎さんが「地元学とは何か？」をテーマに講演を行いました。

「地元学」とは、地元＝池間島を学ぶことであり、人と自然と経済を元気にすることを目指して行います。吉本さんは、「地域を知るためには、足元を見ることが必要。自分たちで足元を調べ、考えて、地域づくり、ものづくりに役立てて地域の元気を作っていくべき」と語りました。その上で、知る↓調べる↓考える↓役立てることを繰り返すことがとても大切なことだと強調しました。

地元学の主役は「その地域に住んでいる人」ですが、地域住民では気づくことができない地域では当たり前なことを、外から来た人が指摘したり質問したりすることで、地域の人々の力を引き出すことができます。そのため、講演の後は、全国で地域づくりに取り組んでいる方々や、沖縄大学の大学生、宮古総合実業高校の高校生をお招きし、島の方々と一緒に島を歩き、「あるモノ探し」を行いました。

第6号
すまだていだよ
参加者たちは、出会った島の方々に「なつかしい食べ物」「池間で好きな場所」「うれしかったこと」「大切にしていること」「池間を



公演情報

一言で言うとう？」などのインタビュを行うほか、「昔のイチオシ写真」「井戸」「遊び」「手仕事」「集まる場所」「廃船」などそれぞれに調べてみたいテーマに分かれて島をまわりました。調べたり、島の人に話を聞いたりしたことを模造紙にまとめて絵地図をつくり、14日に公民館で行われた「すまだてい大交流会」で発表しました。

今回の地元学で出来上がった絵地図は、離島振興総合センターにて展示を予定しています。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

7月28日(日)、離島振興総合センター大ホールにて『琉球國祭り太鼓』宮古支部の公演が開催されました。

